

サーサナ

第41号 仏暦2561（西暦2018）年3月7日

仏弟子ウパーリ

インドでは、今でもカースト差別というものがあります。上から順にバラモン（神官）、クシャトリア（貴族）、バイシャ（平民）、スードラ（奴隷）、そしてさらにその下にアウトカースト（不可触賤民）と言われる人々がいます。江戸時代の士農工商に似ています。

さて、釈尊が悟りをひらかれてから教団も少しずつ大きくなり、釈尊のもとで出家を願う人たちが増えてきました。釈尊の親戚にあたるアヌルッダ、アーナンダ、デーヴァダッタたち6人もまた出家をしようと決心します。彼らは階級でいえば貴族になります。そして奴隷のウパーリに荷物を持たせ、釈尊に会いに行ったのです。

道半ばまでやってきた時、アヌルッダはウパーリに言います、「私たちはこれから出家するのだから、身につけている衣服や宝石はもう必要ない。これをお前にあげるから、国にもって帰るがよい。」

ウパーリは学問や知識とは無縁の人でしたから難しいことは分かりません。しかし本能的に感じました。「この貴公子たちが衣服や宝石を捨ててまで出家したいというのだから、出家というのはとても素晴らしいことにちがいない」と。そこでアヌルッダたちに、自分も一緒に出家したいから最後まで同行させてほしいと頼みました。反対する理由もありませんでしたから了解し、そのかわり、一足早く釈尊のもとに行き、自分たちの来ることを予め伝えておくように命じました。

さて、6人の貴公子たちが到着すると、釈尊は「あなたたちは国では貴族として尊ばれてきました。しかしここではカーストは通用しません。新参者は先輩の比丘を敬わなければいけません。一日でも早く出家した者が上座になるのです」と言って、ウパーリを連れてきました。彼は既に出家をすませ、髪を剃り落し袈裟衣をまもっていました。

6人のうちには、「奴隷を敬うなんて！」と拒否反応を示す者もいましたが、アヌルッダはウパーリに対して合掌し言いました。「私たちはあなたに今まで傲慢な態度で接してきました。許して下さい。私は今後、釈尊とそのみ教えと、そしてあなた方出家者を敬い帰依いたします。」

ウパーリはその後、持律第一と称され、アヌルッダは天眼第一、アーナンダは多聞第一として、いずれも釈尊の十大弟子に数えられるようになりました。

「生まれによって卑しい人となるのではない。生まれによって尊い人となるのではない。行為によって卑しい人ともなり、行為によって尊い人ともなるのである」

と古い經典にあるように、仏教教団では生まれながらの身分・階級による差別を認めてきませんでした。

非暴力抵抗運動で有名なガンジーは平和主義者でしたが、ヒンズー教徒としてカースト制度を擁護していました。これに対し、カースト制度の撤廃を訴えて運動したのが、不可触賤民であったアンベードカル（インド初代法務大臣でインド憲法を起草した）で、ヒンズー教を捨てて仏教に改宗しました。現代インドの仏教はアンベードカルがその礎を築きました。その源はウパーリの出家にあったのです。

法要行事のご案内

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。肩衣とは浄土真宗の仏事における正装で、本山また当寺でも授与することができます

三月 春彼岸会

彼岸（ひがん）は此岸（しがん）に対することばで、悟りの世界のこと、すなわち浄土の別名です。經典に「西方極楽浄土」とあることから、太陽が真東から昇り真西に沈む春分・秋分の日に、沈む太陽を見ながら浄土に思いをはせたのが由来です。

- ❖日時 3月19日（月）午後2時～4時
受付開始は午後1時半
- ❖内容 勤行（観無量寿経訓読、正信偈）
対談「インドで感じたことあれこれ」（西川舜優十住職）
- ❖持ち物 『真宗法要聖典』『正信偈同朋奉讃』
- ❖記念施本 『みちびき（教導）』（仏教伝道協会）

西川舜優先生は、真宗高田派の若手説教使として、絵解き説教をなさる方です（三河すーぱー絵解き座の座員）。1月にインドに行かれた時の貴重な体験を、写真をお見せしながら語っていただきます。当寺住職との対談および、参加者からの質問なども交えたトークセッション形式で行います。



四月 花祭りコンサート

花祭りは、お釈迦様の生誕をお祝いする行事で、甘茶を誕生仏に注ぎます。これを灌仏（かんぶつ）といいます。

「花祭りコンサート」は、今回はピアノとヴァイオリンのデュオ（重奏）を予定しています。曲目は未定ですが、春をテーマに選曲します。お楽しみ下さい。



- ❖日時 4月7日（土）午後2時～4時
（今年は8日ではありませんのでご注意ください）
- ❖内容 2時～ 受付開始と灌仏
2時半～ 法要（嘆仏偈・念仏和讃）
3時～ コンサート
（ピアノ小島千加子さん／ヴァイオリン福岡絃子さん）
 1. 仏教讃歌「法の深山」
 2. ピアノとヴァイオリンのソロおよびデュオ
 3. みんなで歌おう
- ❖持ち物 勤行本『大谷派勤行集』
- ❖記念品 紅白薯蕷饅頭
- ❖甘茶は、本堂内でご自由にお飲みいただくことができます。

五月 永代経

子々孫々、永代にわたって、浄土三部経が誦読され、仏法が伝えられることを願いとする法要。御懇志を頂いたお方の法名を記した掛け軸をお掛けします。（「永代経」という名前のお経があるわけではありません。）

なお、永代経のご懇志については随時受け付けています。

- ❖日時 5月25日（金）午前10時～午後3時
受付開始は午前9時半より
- ❖内容 勤行（無量寿経・阿弥陀経、正信偈）、法話（石原和久師）
- ❖持ち物 勤行本『正信偈同朋奉讃』『真宗法要聖典』
- ❖お齋（昼食）接待があります
- ❖記念品 特製ボールペン

六月 帰敬式（おかみそり）

帰敬式は仏教徒（真宗門徒）になるための儀式です。仏教に帰依したことを名実共に証するもので、受式することにより法名が授与されます。法名は「死んだ人の名前」ではなく、仏教徒としての名前（名告り）です。

- ❖日時 6月28日（木）午前11時～正午
- ❖受式費用 20,000円（うち10,000円は本山礼金）講習会当日お納め下さい
- ❖申込方法
 - ・5月末までに、電話、メールなどにより、仮申込みをしてください。
 - ・下記の講習会には必ずご参加下さい。
- ❖講習会
 - ・6月16日（日）午後1時～4時半
 - ・仏教の基礎的教義や浄土真宗の成り立ちについて住職が講義します。
 - ・既に受式済の方も講習会を無料で受講することができます。ただし事前にお申し込み下さい。
- ❖記念品を用意いたします。
- ❖法名に希望の文字があれば、御相談に応じます。

永代経懇志お礼

下記の方々から永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相續されますことをお願いいたします。

| | | |
|-------|----------|------|
| 1月27日 | 小貝様[瑞穂区] | 10万円 |
| 2月12日 | 酒井様[津島市] | 10万円 |

おみがき奉仕

皆様方のご奉仕をお願いしております。仏具を磨けば心も磨かれます。終了後はお茶とお菓子でおくつろぎ下さい。

- ❖5月10日（木）午前9時～12時

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
